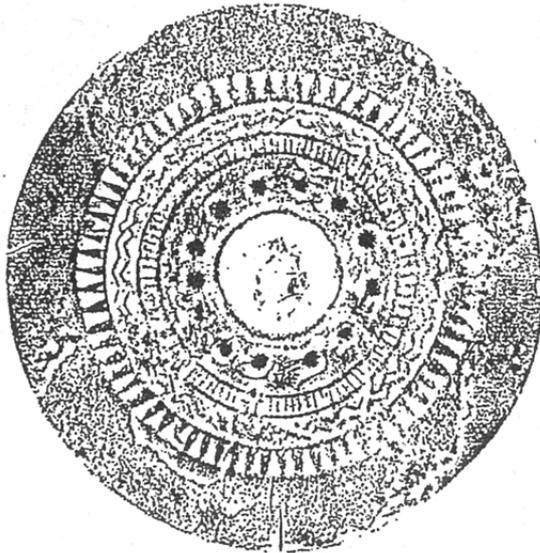


所在不明となっている品のうち鏡について

1 鏡については拓影と写真が残されています。

なお、鏡以外の品（＝「切子玉（水晶）」など）の写真等はありません。

拓影（※1）



写真（提供者名省略）



※1 『多気郡多気町河田字東谷 河田古墳群発掘調査報告書Ⅲ』（昭和 61 年 3 月 多気町教育委員会）より

2 鏡の特徴は次のとおりです。（※2）

- ① 拓影等を参考にすると、面径は 9 cm
- ② 内区の紐のまわりには獣形から変化した乳文が 13 個連なり、その外側には櫛歯文・波文・鋸歯文帯がめぐっている
- ③ 5 世紀後半から 6 世紀の仿製鏡（日本国内で鑄造された鏡）とされている

<参考：かまくら古墳の概要（※2）>

上村集落の中央にかつては村社八柱神社があり、その傍らに所在していたのが本墳である。（中略）昭和 36 年（1961）には本墳は八柱神社があった辺りに現存しており、その年度に県下一斉に行われた埋蔵文化財包蔵地調査によって作成された台帳には「本墳は低沖積地に築造されており、字上村の村落中にある。明治年中に発掘され、古老北山弁之助氏によれば古鏡 1、直径 5 寸（15cm）程の四獣鏡、管玉、勾玉、小玉等が多数出土したと語った。規模 27m、高さ 4m、墳頂は平坦」と概要を記し（ている）。

※2 『明和町史 史料編 第一巻』（平成 16 年 3 月 明和町）より